

2004年

## 軽防協ニュース速報 NO. 4

### 2004年第4四半期（10月－12月）の伝染病発生状況についての報告

(International Collating Center からの情報)

2005年1月27日

#### アルゼンチン

##### 馬のヘルペスウイルス

###### EHV-1 流産型

2004年11月15日から12月10日までに、2施設で数頭のポロ競技用のポニーが、EHV-1と診断された。確定診断はINTA Castelarのウイルス研究所でウイルス分離とPCR検査で行われた。そのうち1カ所の施設では、妊娠5, 7, 9ヶ月齢時に国内の研究所で製造されたEHV-1ワクチンを接種していた。また、ワクチン接種されなかった他の牧場では、数多くの流産が発生した。当該施設の牝馬は受精卵移植で妊娠させており、その経済的な損失は非常に大きい。

##### 馬インフルエンザ

2004年10月1日に1施設の8頭の競技馬が、INTA Castelarのウイルス研究所でウイルス分離とELISA検査により、H3N8型馬インフルエンザと診断された。すべての感染馬はワクチン接種されていたが、抗体は陰性であった。乗馬クラブに入りゅうした1頭は、発咳、発熱、鼻漏などの臨床症状を示した。

##### ロタウイルス感染症

この四半期に4施設で、サラブレッド種と非サラブレッド種でロタウイルス感染症が発生した。確定診断は、INTA Castelarのウイルス研究所でELISA検査によって行われた。下痢は水様性で、色は黄色から緑色であった。下痢を発症した子馬のいる牧場の中には、出産前の牝馬に国産メーカーの不活化ワクチンを接種しているところもあった。

#### オーストラリア

報告事項なし。

#### カナダ

報告未着。

#### デンマーク

2004年10月に Klampenborg 競馬場において、数頭の競走馬に特異的な症状がない“ブアパフォーマンス”が見られた。調教を始めた2歳馬の中には、発熱や発咳が見られる馬もいた。すべての馬には、規定どおりの方法で馬インフルエンザワクチンが接種されており、ペア血清を用いた検査では、馬ライノウイルスに対する抗体上昇は見られなかった。現在、新たな症例（4歳のサラブレッド種）のインフルエンザの抗体検査が行われている。詳細が判明すれば次回に報告する。

## フランス

### 馬インフルエンザ

Oise と Orne のサラブレッド種と Seine と Vald'Oise の Trotter、Charente-Maritime のアラブ種で馬インフルエンザが発生した。確定診断は血清学的検査により行われた。

### 馬ヘルペスウイルス

#### EHV-1 流産型

EHV-1 の流産が、Orne のサラブレッド種と Trotter 種で発生した。初期診断は凍結切片を用いた蛍光抗体法によって行われた。細胞培養と PCR 検査によって陽性と確定診断された。

#### EHV-4 呼吸器型

EHV-4 による呼吸器病が Calvados、Landes、Maine-et-Loire(2つの異なる施設)、Oise(5頭)、Orne、Sarthe のサラブレッド種、Manche、Val de Marne の Trotter、Côte d'Or、Dordogne、June、Seine、Essonne(5頭)、Val-d'Oise の乗馬、Corrèze、Charente-Maritime、Oise、Yvelines、Essonne(2頭)、Hauts-de-Seine のその他の非サラブレッド種において血清学的に診断された。

### 非定型性ミオグロビン尿症

55頭の疑似症例（ミオグロビン尿症、麻痺、疝痛、褐色尿、CPK と SGOT の上昇）がフランスで見られ、そのうち42頭が死亡し、6頭が組織学的検査により非定型性ミオグロビン尿症と診断された。主な発生地は、Aisne(1)、Hautes-Alpes(2)、Ardenne(1)、Calvados(1)、Doubs(2)、Manche(1)、Marne (2)、Nord(1)、Oise(2)、Rhône(2)、Seine-Maritime(1)、Seine et Marne (7)、Yvelines (2)、Vendée (1)、Val d'Oise (1)、および、Alsace (1)の30カ所であり、4カ所については明記されていない。

### ピロプラズマ病

ピロプラズマ病は、南フランス地方の風土病として存在している。

## ドイツ

報告事項なし。

## 香港

報告事項なし。

## アイルランド共和国

### 腺疫

個別の発生が 8 頭あった。

### サルモネラ症

1 頭の発生があった。

### 馬インフルエンザ

10 月に 1 カ所の競馬場で発生が見られ、鼻汁スワブの PCR 検査で確定診断された。12 月には 2 回目の発生がほとんどすべての馬がワクチン接種をしている競馬場で見られた。この発生は臨床的には軽度であり、ウイルス分離によって診断された。

### 馬ヘルペスウイルス

#### EHV-1 流産型

異なった施設で 2 頭の発生が見られた。最初の症例はワクチンを接種していなかった。

#### EHV-4 呼吸器型

3 カ所の施設でワクチン未接種の乳離れしたばかりの仔馬で、軽度の呼吸器病が発生した。診断はウイルス分離と血清学的検査により行われた。

## イタリア

報告事項なし。

## 日本

### 馬ヘルペスウイルス

#### EHV-1 流産型

11 月 21 日と 12 月 15 日に離れた 2 施設の 2 頭の繁殖牝馬で EHV-1 による流産が発生し、ウイルス分離により日高家畜保健衛生所において確定診断された。2 頭ともワクチン接種済みであった。

#### EHV-4 呼吸器型

2004 年 10 月 29 日から 11 月 9 日までに、2 施設の 13 頭が EHV-4 に感染した。日高家畜保健衛生所でウイルス分離と PCR 検査によって、確定診断された。すべての馬はワクチン未接種であった。

### 破傷風

2004 年 11 月 27 日に 1 頭の子アラブ種が、典型的な症状によって破傷風と診断された。診断は石狩家畜保健衛生所によって行われた。この馬はワクチン未接種であった。

### 馬パラチフス

この四半期に 2 施設の 9 頭の子アラブ種が、*S.abortusequi* に感染した。発生は 2004 年 11 月 11 日から 12 月 3 日までの間発生した。診断は釧路家畜保健衛生所と根室家畜保健衛生所によって細菌分離により行われた。

## ニュージーランド

報告事項なし。

## スペイン

報告事項なし。

## スウェーデン

報告未着。

## スイス

### 馬ヘルペスウイルス

#### EHV-1 流産型

1 例の届出があったが、詳細は不明である。

#### EHV-3

スイス東部で 2 例の届出があった。

### 馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

1 例の届出があったが、抗体陽性馬のみである。

### 腺疫

Zurich で 9 月末か 10 月初旬に 1 例の報告があった。

### ピロプラズマ症

1 頭の臨床例 [*B.equi* (*Theileria equi*)] と 8 頭の血清陽性馬 (4 頭が *B.caballi*、2 頭が *B.equi*、2 頭が *B.caballi* と *B.equi*) が、北西部、東部、中部で発生した。

### ウエルシュ菌 (*Clostridium perfringens*)

*Clostridium perfringens* の  $\beta$ -2 毒素により、3 歳の競走馬に致死的な腸炎が起こった。

### 破傷風

1 頭発生した。

### 非定型性ミオパチー

11 月と 12 月の最初の寒冷日の後、Jura の 3 施設で 1 頭、2 頭、4 頭のそれぞれ若馬が馬場で斃死した。

### その他の感染症

輓馬で *Chorioptes bovis* 感染症が発生した。詳細は不明であるが、2 頭の牝馬が *Dictyocaulus arnfieldi* による急性気管支肺炎に罹患し、1 頭がサルモネラ症に罹患した。Geneva 近郊のライディングスクールで 3 頭の原因不明の進行性四肢麻痺が発生し、患馬は安楽死する必要があった。死後の病理解剖により、明らかなヘルペスウイルス感染が確認された。

## トルコ

報告事項なし。

## アラブ首長国連邦

### ピロプラズマ症

*Babesia equi* (*Theileria equi*) と *Babesia caballi* は、散発的に風土病として存在している。

### サルモネラ症

1 頭が *S.muenster* 感染と診断された。

## イギリス

### 馬ヘルペスウイルス感染症

#### EHV-1 流産型

12 月初旬にイングランドの Hertfordshire のきゅう舎で飼養されている、5 歳のサラブレッド種牝馬 1 頭で EHV-1 による流産が発生し、組織学的検査と PCR 検査により確定診断された。

#### EHV-1 神経型

10 月にイングランドの Essex の牧場において、ワクチン未接種の 14 歳アラブ混血種牝馬で EHV-1 神経型が発生し、当該馬は排尿困難、後肢麻痺、横臥などの症状を示した。血清学的、ウイルス学的検査が行われたが、接触した 8 頭の馬にはウイルス感染の証拠は見られなかった。感染した牝馬は治療中張起帯で支えられ、1 ヶ月内に順調に回復した。

11 月末にイングランドの Leicestershire の小規模なサラブレッド牧場で、EHV-1 の神経型が 2 例発生した。最初の症例はワクチン未接種の牝馬であり、突然横臥の症状を示した。ヘパリン加血液からのウイルス分離により確定診断された。その後この牝馬は安楽死処分された。最初の症例に直接接触した馬は、やがて後肢麻痺と尿失禁の症状を示した。HBLB の規則による当該施設の移動制限措置と 24 頭すべての馬について血清学的、ウイルス学的ならびにスクリーニング検査が行われた。この結果、感染は 2 症例を含むアメリカの厩舎と一緒に飼養されていた 8 頭の馬群に限られていた。

#### EHV-4 呼吸器型

この四半期に 2 つのサラブレッド種の調教施設において、発熱、鼻漏、発咳などの軽度な呼吸器疾患の原因となる EHV-4 の感染が確定診断された。ウイルスは鼻粘膜のスワブから分離され、ペア血清を用いた CF 検査で抗体価上昇が見られた。

### インフルエンザ

9 月にイングランドの Oxfordshire の 1 施設において、ワクチン接種済のコップ種、12 歳せん馬がインフルエンザに感染したことが確定診断された。このポニーは臨床的に重度の呼吸器疾患を継発して死亡した。剖検で肺組織から免疫染色法でインフルエンザウイルス抗原が検出された。接触したワクチン接種済の 2 頭の馬には、症状は見られなかった。

11月初旬、イングランドの Hampshire の牧場で飼養されている 9 歳のウエルシュコップ種の牝馬が、抗体価の上昇によりインフルエンザと診断された。当該牧場では、30 頭中 8 頭が感染していた。当該馬は 7 月に最後のワクチンを接種しており、発熱や黄色鼻漏、安静時の頻繁な発咳など典型的な症状を示した。

11 月末と 12 月初旬に Wales の近接した 2 カ所の非サラブレッド種の施設で、鼻粘膜スワブの核蛋白 ELISA 検査により、インフルエンザが確定診断された。2 カ所の施設では、主にワクチン未接種馬が感染していた。発育鶏卵を用いたウイルス分離・同定の結果、H3N8 型のアメリカ型に類似した系統であることが分かった。この型のウイルスは 2003 年春以来、英国国内で伝播しているウイルスにきわめて近縁である。

### 馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

10 月末に輸入されたばかりの非サラブレッド種種牡馬が、EU 以外の国に輸出される前のルーチンの EVA 検査で抗体陽性であることが判明した。引き続き行われた精液検査で、ウイルスが分離され、当該馬は精液中からのウイルス排泄馬であることが分かった。この馬は直ちに 1995 年の馬ウイルス性動脈炎法に基づいて監視下に置かれ、英国環境食糧農業省 (Defra) による他動物に対する検査が行われたが、ウイルスが伝播している証拠はなかった。さらなる情報は、下記の Defra のホームページから入手できる。

[http://www.defra.gov.uk/animalh/diseases/notifiable/disease/equine\\_viral\\_arteritis.htm](http://www.defra.gov.uk/animalh/diseases/notifiable/disease/equine_viral_arteritis.htm)

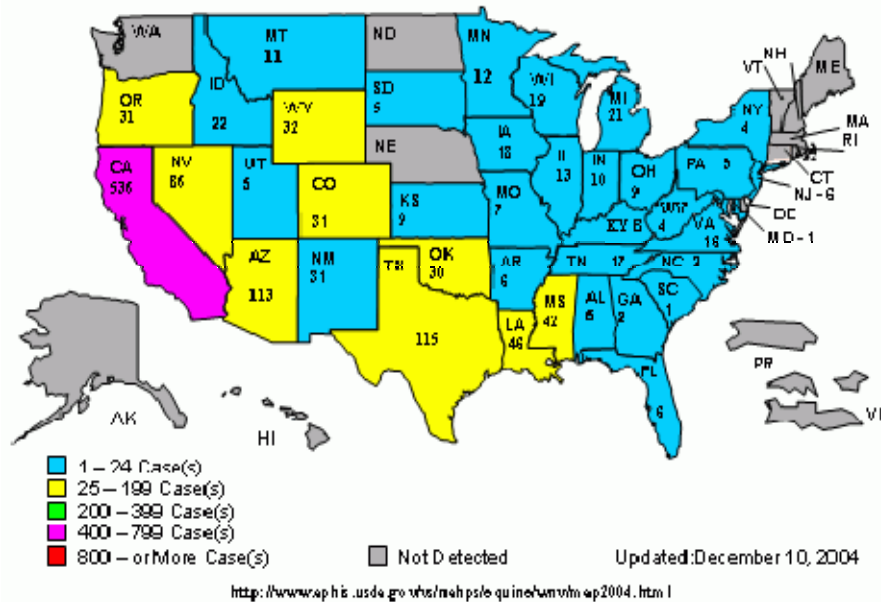
## アメリカ合衆国

### ウエストナイルウイルス感染症

米国農務省は、12 月 10 日における 2004 年度のすべての馬の症例は、1,341 頭であると発表した。罹患馬の多くは、カルフォルニア州 (534 頭)、テキサス州 (115 頭)、アリゾナ州 (113 頭) でみられ、この感染症が西部に向かって広がっていること、および東部の州では罹患馬の減少が浮き彫りにされた (地図参照)。2003 年に報告された馬の症例数は約 4,500 頭で、疾病管理センター (CDC) によって作成された同様の発生地図では、2004 年に人の症例数は 2,432 人であったと 12 月 14 日に報告されている。この中には、カルフォルニア州 (760 人)、アリゾナ州 (389 人)、コロラド州 (276 人)、テキサス州 (147 人) の多くの症例とともに 87 人の死亡者数が含まれている。2003 年の人の症例は、アメリカ国内で約 8,500 人と報告されている。

## West Nile Virus in 2004

States with an Equine Case(s)  
Total Cases 1,341



### 馬ヘルペスウイルスとレプトスピラ症による流産

Lexington の家畜疾病診断センターは、この四半期に EHV-1 による流産 2 症例とレプトスピラによる流産 6 症例を確定診断した。

### ピロプラズマ症の検査

2004 年 12 月 5 日をもって米国農務省 (USDA) は、アメリカ合衆国に輸入される馬に対するピロプラズマ症の C-ELISA 検査を廃止した。今後、米国への輸入馬の検査には、2004 年 11 月 1 日以前に使われていた補体結合反応試験 (CFT) が導入されることになるであろう。